

大相撲 9 月場所の観戦

もうじっとできなくなった人

大相撲 9 月場所（両国国技館：9/13～27）の 3 日目（9/15）の観戦に行ってきました。実観戦は今回で 3 回目になりますが、過去 2 回は余りに古くほとんど覚えがありません。いずれも確か大阪場所であったと思います。従って、両国国技館は初訪問場所です。今回の観戦は、コロナ禍においてインターネット予約抽選で当たったものです。観客数は 1/4 に制限され、開場は遅く 13:00 です。また、マスクは常時着用で、飲酒（アルコール類）禁止、大声声援が禁止されています。

両国国技館に近くなるとテンポの良い「寄せ太鼓」が聞こえてきました。そして正面側に着くと色鮮やかな幟旗（のぼりばた）と高い櫓（やぐら）が目に入り込みました（図 1 参照）。「寄せ太鼓」は、この高さ 16m の鉄製の櫓の上で呼び出しさんが打っているのです。



図 1 両国国技館前の幟旗と太鼓櫓



図 2 板番付（太鼓櫓に掲示）と御免札

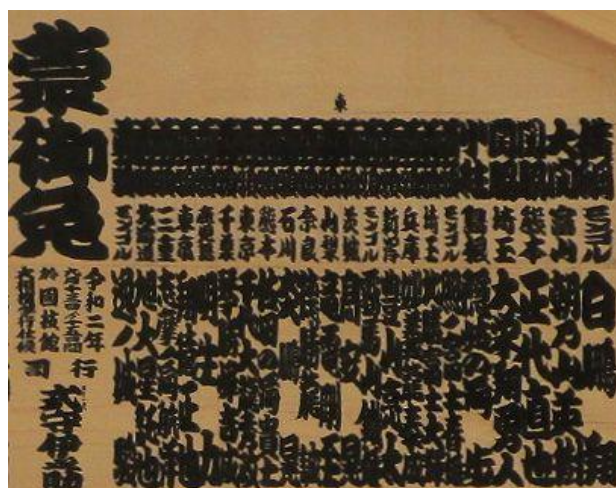


図 3 板番付（左図）とその部分拡大図（右図）

太鼓櫓には「板番付（いたばんづけ）」が掲げられています（図 2 と 3 参照）。屋根にあたる部分は「入」の形に組まれている「入屋根形（いりやねがた）」であり、大入り満員を願ったものだといわれています。板はヒノキ製で高さ約 2m 幅約 1.5m と大きいものです。板番付は本場所が始まる直前に行司の手で書かれるものとか。

番付（正式には番付表）は上位者ほど大きく太く、地位が下がるにつれて格ごとに小さく細く書かれています。向かって右に東方、左に西方の力士の名が右端の横綱から左へと順に並んでいます。縦は 5 段に分かれ、最上段に幕内力士、2 段目に十両と幕下、3 段目は三段目、4 段目に序二段、5 段目に序の口と年寄、呼び出しらの名が並んでいます。中央には「蒙御免（ごめんこうむる）」と太い字があります。江戸時代に相撲が幕府の許可を受けての興行であることを掲示して以来のもので、現在も番付に書く慣例になっているそうです（Ref.1）。字体は相撲字と呼ばれる独特なタイプです。

また、太鼓櫓の横の柵には高さ約 4m の木製で入屋根形の「御免札（ごめんふだ）」が建てられていました（図 2 と 4 参照）。大相撲 9 月場所（9 月 13 日初日・国技館）の開催を告示したものです。この札にも「蒙御免」の相撲字が大きく書かれています。



図 4 御免札
（図 2 参照）

13 時開場で検温チェックと手の消毒を済ませ、中に入りました。案内人全員がマスクとフェース・シールドをつけています。予約席は正面側の 1 人マス席（通常は 4 人席：鉄パイプ区切りの 1 枠）で、ここから観た館内を図 5 に示します。

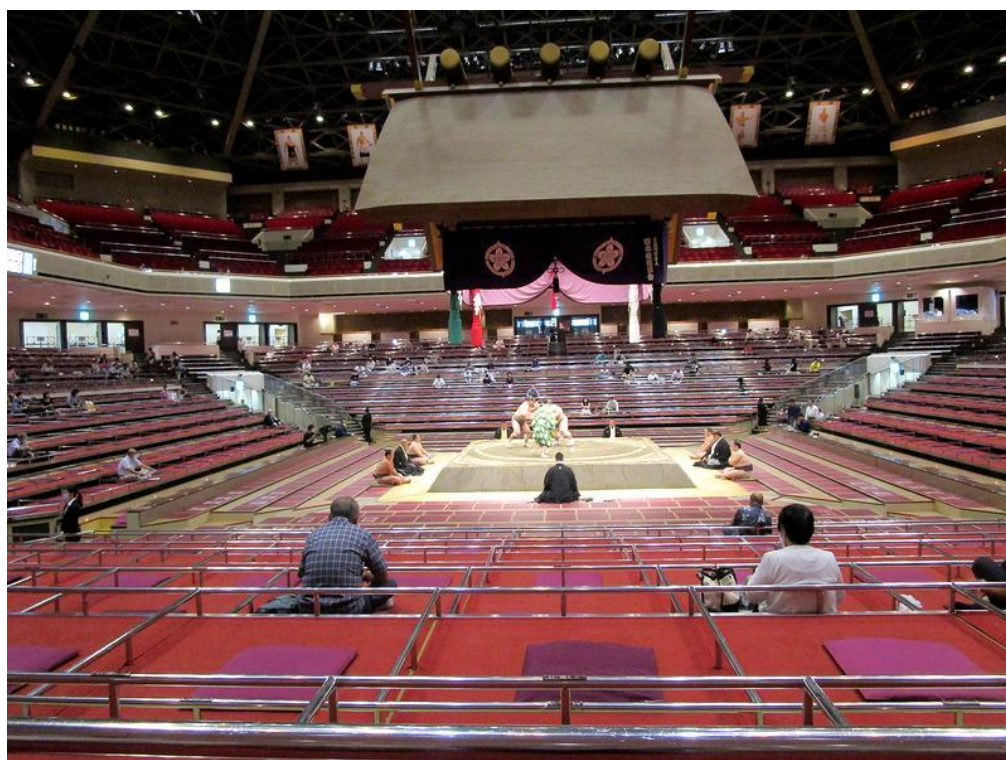


図 5 正面 1 人マス席から観た館内（13：20 頃）

国技館の収容人数は 11,098 人（約 10,500 席： 1 階 6,000 席、2 階 4,500 席）ですが、今場所はコロナ禍で約 1/4 の 2,500 人ほどに抑えられています。土俵に最も近い溜席（たまりせき）、通称「砂かぶり」は、今回は観客を入れていません。また、2 階は全てイス席ですが、3 席とばし着席になっています。取組は 9 時から始まり、序ノ口、序二段、三段目、幕下、十両、幕内と進行します。従って、コロナ禍での今回開場 13 時過ぎには三段目の取組になっていました。



図 6 西方の幕内土俵入り（15:45 頃）



図 7 土俵を回る懸賞旗



図 8 結びの一番（17:45 頃）：朝乃山一照ノ富士

館内は非常に静かです。館内に響き渡るのは、呼び出しの「呼び上げ」で「ひがーいしー、■■、にーいしー、▲▲」。力士が仕切りの間に褌を手でたたく「パンパン、パンパン」。時間一杯になって塩を取りに行き、尻や腿、頬っぺたを手でたたいて気合い入れる「バチバチ、バチバチ」。そして、力士が立ち上がったからは行司の「はっけよい、残った、残った」の掛け声のみです。

行事の取組前の掛け声「構えて」「手を突いて」「見合わせて」、制限時間後の「時間です」、そして立ち合い時の「待ったなし」「手を突いて」「腰を下ろして」は、静寂の中でライブ感豊かに聞こえてきます（当然のことですが）。余り情緒がないのが館内放送でした。

一方、観客においては、マスクは常時着用、大声声援は禁止されています。小声声援すら全く無く、話し声や咳払いもほとんどありません。聞こえてきたのは、幕内取組の中盤頃からの「パチ、パチ、パチ、パチ、パチ」の拍手群。一瞬にして勝敗が決まった時の「アッ」とか「ホッ」の息もれのみでした。1.3m 四方のマス席に寝転がる人もなく真面目な客ばかりでした。

館内での常設の売店は閉鎖しており、開いていたのは 1 か所（図 9 参照）のみでした。ここで大相撲観戦の名物である「国技館焼き鳥」を購入しました。地下で秘伝のたれで独自に焼いているのだそうです。余りにも静寂で締まった観戦雰囲気であり、パックを開けて食べることができず、持ち帰りました。その他、地下 1 階の大広間でいただける名物「ちゃんこ」やロビー横の相撲博物館（無料）も閉鎖していました。



図 9 館内の売店



図 10 エントランスホールの左壁にある陶版画「織田信長の上覧相撲」



図 11 優勝旗と優勝杯



図 12 奈良県知事賞、福島県知事賞、東京新聞の優勝盾

TV 中継で、観戦席から力士の名前入り（四股名入り）タオルを持って応援する光景をよく見かけます。この力士応援タオルで今回最も多かったのは「炎鵬」でした。白地に“炎”色の文字が書かれていました。身長 169 センチ、幕内最軽量 96 キロの小さな体で平均体重 165 キロ前後の巨漢力士に立ち向かう姿は、観客の判官びいきも手伝って、勝っても負けても応援、人気があります。

今場所は、白鵬と鶴竜の2横綱が休場し横綱不在となっています。従って、横綱土俵入り也没有ありません。また、力士 24 人の新型コロナウイルス集団感染が発生した玉ノ井部屋（師匠・玉ノ井親方=元大関栃東）の所属する全員 28 人が休場しています。横綱不在のため、実力ある下位力士にとってまたとない優勝のチャンスであり、大いに頑張っ
て盛り上げて欲しいと思います。

今回の実観戦は、TV 観戦では得られないライブ感がありましたが、観客が少なく寂しさがあります。ただ、国技館の初訪問者にとっては目新しいことが多く楽しい一日でした。

半年ぶりに地下鉄にりましたが、全員マスク姿でした。また、両国周辺を歩くビジネス人、観光客も全てマスク姿です。やはり、新しい社会への変革を覚えました。都会でのまばゆい一日でした。

参考文献

Ref.1 町田 和洋, 相撲字と番付

(<http://www.asahi.com/special/kotoba/archive2015/danwa/2013091000005.html>)